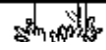




読書して考えないのは、食事をして消化しないのと同じである。(エドモンド・バーク = イギリスの哲学者)



学校図書館職員等研修会開催 県立学校職員・生徒27名が 講義や情報交換に参加

学校図書館の整備充実のために、県立図書館が行う支援の中に、「学校図書館職員等研修会」があります。今年度も、8月9日（金）に開催しました。

前半は、グラフィックデザイナー野崎文隆氏による「ポスター・チラシの作り方講座」の講義が行われました。



ポスターを示しながら講義する野崎氏

まず、ポスターとチラシの目的の違い、プロの作品の優れている点などについて、実際にポスターやチラシを示しながら説明がありました。

「ポスターは近づいて見るものではないから、いろいろな情報をそぎ落とすことが必要です。」「ちょうどいいポスターなんかありません。いいか悪いかのどちらかです。」「といった、専門家ならではの言葉を、参加者たちは熱心にメモをとりながら聞いていました。

続いて、それぞれの学校が持ち寄ったポスターや図書だよりについて、野崎氏と県立図書館山崎副館長から助言がありました。参加者たちは口々に、「これからの活動に生かせる指摘でした。」「勉強になりました。」などと話していました。



映し出される参加校の図書だよりを見ながら助言を聞く参加者

<アドバイス>

- ◆ たくさんの色やフォントを使い過ぎない
- ◆ 白抜き、網掛け、線を効果的に用いる
- ◆ イラストの配置と数のバランスを
- ◆ フォントによって異なる字幅を整える
- ◆ 当たり前前の平凡なキャッチコピーは避ける
- ◆ ひとまとまりの言葉が行替えて離れないように
- ◆ ポスターには空間を設ける

後半は、先生方と生徒たちに分かれて情報交換を行いました。映画館からもらったチラシを館内掲示に活用していることを紹介する先生もいれば、図書館で司書として働く方法を尋ねる生徒もいるなど、図書館運営の工夫から進路相談まで、幅広い情報交換の時間となりました。



生徒（左）と先生（右）に分かれた情報交換会の様子



参加者の中には、「今まで後輩任せにしていたので、自分も積極的に活動しようと思います。」「と、決意を述べて研修会場を後にした生徒もいました。

「秋田県読書フェスタ」の ロゴができました！



毎年行っている「秋田県読書フェスタ」において、これまでは秋田県図書館協会のマークを使用していましたが、この度、オリジナルロゴができました。

した。グラフィックデザイナーで県立図書館協議会委員でもある野崎文隆氏によるもので、県民の読書の気運を高める「秋田県読書フェスタ」を象徴するデザインとなっています。開いた本から手書きの文字が飛び出している感じがしませんか？ここに紹介しました赤と青の2色刷りのほかに、青、黒の各単色のマークもあります。

今年度から、読書イベントマップやポスター、チラシなどに用いますので、このロゴを目印に「秋田県読書フェスタ」をお楽しみください。



学校の活動紹介

横手市立朝倉小学校 (横手市)

子どもの読書活動優秀実践校 平成25年度文部科学大臣表彰

<全校体制で読書推進>

学校経営の中心となる「ことばの教育三本柱」の一つに「読書活動の充実」を掲げ、全校体制で実施しています。

<二つの100を目標に>

全校児童の年間100冊以上の読書と、全校児童の図書館利用率100%を目標に掲げています。

<推薦図書120冊の策定>

各学年20冊を選定し、年間指導計画に沿って読むように児童

に勧めています。

<読み聞かせの推進>

地域ボランティア、図書委員、学校司書補助員などによる読み聞かせを、毎週水曜日に行っています。

<読書量の確認と表彰>

全校児童の読書状況をデータベース化し、利用冊数や読書したページ数などを集計しています。また、上位者を表彰することで、次の読書への意欲につなげています。



夏休みにぎわう図書館

<保護者の理解と参加>

水曜日をノーゲームデーにして「親子で読書をする事」を推奨しています。また、保護者ボランティアが学校図書館で図書貸出に協力しています。

秋田大学子ども見学デー

附属図書館の知的空間を満喫

秋田大学では、毎年夏休みに、小・中学生とその保護者を対象に、「秋田大学子ども見学デー」を実施しています。今年度は、8月7日(水)に11コースで実施し、「大学図書館ってどんなところ?」には、23名の親子が参加しました。

まず、「図書館ツアー」から始まりました。教員養成過程をもつ大学らしく、教科書が並んだ書架の前に来ると、緊張気味だった子どもたちも、なじみの教科書を手にとって眺めていました。また、ボタン一つで動く本棚を操作して、書庫から読みたい本を自分で探すことができるという説明を、興味深そうに聞いている参加者もいました。

次に、指定された本を書架から探し、自動貸出装置で手続きをする「スタンプラリー」を行いました。ゴールした子どもたちは、図書館のマスコット「しゅうと」くんの賞品を手に入れました。



ラベルを手がかりに探す親子



画面を見て自分で手続きしました

他にも、iPadを使った電子書籍体験や大型製本機でのメモ帳作りを行いました。

敷居が高く思われがちな大学の図書館ですが、一般の方の利用も可能で、県内の18歳以上の方は借りることもできます。他の図書館にない専門的な本を探しに来る方も多いようです。

7月の「打って出る司書」

今月は出前研修が充実していました。湯沢市立湯沢図書館、にかほ市立図書館こびあでは資料の補修研修を行いました。上小阿仁村立図書館では学校図書館ビフォー&アフター、美郷町学友館では、企画立案ワークショップ、潟上市図書館では著作権、図書館改善ワークショップ、秋田市立中央図書館明德館ではサービスのあり方検討、羽後町立図書館では子ども司書養成講座を行うなど、

それぞれの図書館の実情に応じて必要な研修を行いました。また、研修の対象者も、図書館職員だけでなく、教員、ボランティア、小・中学生など多岐にわたっています。

<訪問した市町村立図書館・公民館図書室の数>

県北	県央	県南
8館室	15館室	14館室

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>